

○名古屋市立名東小学校において、「防災」をテーマとした総合学習の一環として出前講座を実施しました。
○講座では、体育館での授業を通じて、7月に発生した熊本地震における国土交通省の災害復旧支援の状況を紹介するとともに、自然災害が私たちの日常生活の身近な場所で発生する可能性があることや、国土交通省が取り組む防災対策について学んでいただきました。
○また、中部技術事務所が保有する災害対策用機械を実際に見学・体験していただき、災害支援活動で活躍する車両の役割について理解を深めてもらいました。

- 内 容 対策本部車・排水ポンプ車・照明車（20m級）を用いた防災教育
- 日 時 令和8年9月25日(金)10:40～12:25
- 場 所 名古屋市立名東小学校（名古屋市名東区亀の井3丁目134）
- 対象者 4年生（児童159名、教員6名）

【↓排水ポンプ車見学】



【↑対策本部車 操作体験→】



【↑照明車 操作体験】

児童からの声

- ・災害への備えをきちんしよと思った。人に頼ってばかりではなく、自分でも役に立つことがあればやりたい。
- ・日頃から災害に備えることが大事だとわかっていたけど、お話を聞いて、国交省の方々は災害が起こる前から命を守る仕事をしてっていると知った。今まで以上に、自分でできる備えをすることが大事だと思った。
- ・ボタン1つで照明車や対策本部車が動くのがよいと思った。本部車はボタン1つで車から広い部屋になったので驚いた。
- ・ボタンの操作を実際にしたが、たくさんのボタンが並んでいてもすぐ分かるようになっていて、小学生の自分でもどれを押せばいいのか迷うことなく操作できた。災害の現場でもできるだけ素早く動かすための工夫なのかなと思った。
- ・家に帰って、防災バッグの中身や非常食を確認してみた。意外とたくさんあったので、本当に必要かどうか見直すことも大事だと思った。



講師：中部技術事務所 安東技官



【↑授業の様子】

